中国東北(北満州)鉄路の旅「ハルビン・長春(新京)・黒河」の記憶

長春からハルビンへ、駅前は混雑していた。かねてから赤帽を頼んでいたのが実現、大きな荷物がないのは楽です。日本にまだ赤帽はあるのかな? 寝台列車も少なくなり?

長春~ハルビン間は「和階号」情緒がなかったが、ビュッフェの隣だったためアルコール好きの我が連中はビュッフェのビール(啤酒)を全部飲んでしまった!売り子のクーニャン(姑娘)は大喜び我ら一行日本人もいい気分!



街の混雑は活気がある

清衛

宮岸

堂々の長春駅だが周辺は 混雑していた経済盛期か

Callin .

車に積んでいたないた赤いジポーターと呼

いこて台飲み悦に入る我がおジャ売店のビールを全ジャ売店のビールを全

ハルビンは列車を降りバスで郊外の平房にある「731部隊跡」へ向かった。道路は立派に整備されていました。

731 部隊は、昭和8年(1933)、日本陸軍が中国ハルピン市 近郊に設立した、細菌戦研究のための特殊部隊のことです。 関東軍731 部隊と呼ばれており、正式名称は関東軍防疫

給水部本部。石井四郎軍医中将を中心に、さまざまな生体実験を行ったとされています。 日本陸軍が生んだ"悪魔の部隊"とも呼ばれ、世界で最大規模の細菌戦部隊は、日本全

国の優秀な医師や科学者を集め実験で殺された捕虜(「丸太」と呼んでいました)は 3000 人以上とも言われています。不思議なことに極東国際軍事裁判では 731部隊関係者は誰も 起訴されていませんでした。

森村 誠一の著書に収められて一躍有名になった歴史があります。

戦後その、731 部隊最後の組織的な部隊が我が故郷、金沢市小坂町の野間神社にあったと聞いており、興味が深まっていました。名誉院長莇 昭三先生の紹介状を頂き、現「七三 一細菌部隊罪証陳列館」館長 金成民 と我々14 名は対談をしました。対談の中で 4 年後

には世界遺産登録を申請するとのことでした。

終戦直後野間神社では軍服を裏返してミシンを使って背広に仕立て直して、それを着て3,3,5,5、と男が外出していたそうです。沢山の品物の中に[珪藻土]で作ったろ過装置の様な物もあったそうです。

能登は「珪藻土」の産地です、一考があります。 731部隊の敷地は広く飛行場もあります。当時



付近は人家が少なく耕作地はまばらだったそうですが、今は立派な市街地です。

日本侵略軍「731部隊」遺跡の紹介

「満州第731 部隊」は当時の日本最高支配者の命令により、中国で創立 された一つの特殊部隊である。同部隊は1935年にハルビンの平房地域で生物兵 器の開発と実験基地の建設を進め、当時の日本軍が東南アジアの転場で行って いた細菌駅の指揮中心地になっていた。

この「人間を食う魔窩」呼ばれていた基地において、「731 部隊」は残 虐な手段で人体実験を行い、細菌兵器の研究の開発に取り組んでいた。歴史の 資料と考証によると、1935年から1945年までのわずかな期間に少なくとも3000 余名に達する国内外の抗日反満州の人士と罪のない人々が人体実験に使用され、 報答された。

1945年8月、日本は敗戦で降伏した。そして「731 部隊」が敗走する時、 その凶暴な犯罪を聴蔽するために、この地域の施設を激しく破壊した。現在発 見されている遺跡は合わせて23ヶ所に上る。



⑤石井は金沢医大の付近に「第731部隊内地本部」を開設。 731戦後本部

終戦直後、1945年8月19日のことである。金沢市小坂町東1番地、野間神社に軍属服を着た数人の男がやってきた。男たちは次のように向上を述べた。

「自分達は舞鶴港に引き上げた陸軍のさる部隊の者だが、金沢に入ったところ、どこにも泊めてくれる宿がなく難渋している。・・・・・男たちは部隊名を名乗らなかった。総勢 20 人余り・・・・神社付近の氏子連に、物資の分配・放出を告げた。・・・・部隊幹部による変装外出が続いた。・・・・部隊が野間神社から撤退したのは 1945 年 9 月 22 日のことである。

野間神社こそは、第731部隊が米軍の目から隠れて設置した最後の本部だったのです。



野間神社は現在も当時 の面影をそのまま残し て歴史を語っています。 後世にも語り続けて世 の中に役立てたいです。



25 日ハルビン最後のお別れ 晩餐会は添乗員も皆で池田さんのハーモニカで歌を歌って「支那の夜」を楽しんだ。

直しに最後の本部につたのです。 鉄路の旅と銘して旧北満州へ約 1000KMの旅だったが和階号が運行 されており街中も、ビルの連立で急 な発達に翻弄された思いでした。 日本の 20 年の停滞をつくづく実感

でも日本人が足跡を残した歴史の地に数ヶ所は挨拶出来たのは幸いでした。 おわり。

させられる旅でした。



城北の看護師2人患者2人



著 莇 昭三 城北病院名誉院長 戦争で日本の医療はどのように影響を うけ、それがどのように国民を苦しめ たのか、狂気の時代をあらためてふり 返る。「七三一部隊」などを黙認してき た日本の医学界にもメス。